

もしもに備えて



薬の情報をまとめておこう

今回は薬について、呉医療センターの二五田基文薬剤部長に伺いました。

① 「お薬手帳」の活用を

薬の正式名称や用量・用法を正確に覚えていない人はまずいません。お願いしたいのは“「お薬手帳」の携帯”と“情報の一元化”です。複数の病院に通院している方の場合、同じ目的の薬があったり、組み合わせによっては悪影響を及ぼしかねない場合もあり、術前中止薬を正確に判断するためでもあります。薬剤師に一冊の手帳にまとめてもらいましょう。



② 災害時にも、その有無で大違い

災害時には各地から応援に駆け付けた医療スタッフが対応することも多く、手帳の有無で対処のスピードに大きな差が出ます。手帳の情報があると緊急性に応じたスピーディーな処置につながります。また、災害時は手帳を失うこともありますので、携帯電話のカメラ機能を使って処方薬を撮影し、画像をご家族とも共有しておくのもいいでしょう。

③ サプリメントやアレルギーにも注意を



サプリメントなどは医師や薬剤師に申告されない方も多いのですが、薬と併用すると問題がある成分が含まれている場合もあります。サプ

リメントについても必ず教えてください。また、アレルギー体質の場合は処置も変わる場合がありますので、必ず手帳にその情報を記載してください。

受診の際は必ず
「お薬手帳」を
お持ちください



お薬手帳は診察券や健康保険証と一緒に保管し、病院・医院・薬局などへ行くときには忘れずにお持ちください。

お薬手帳は、あなたに処方されたお薬の名前や飲む量、飲み方などを記録・連絡するための大切な情報源です。

※なお、お薬手帳に記入するお薬は、処方箋（処方箋）に基づき、処方されたお薬のみです。



■ 呉医療センター・中国がんセンター (広島県呉市)



許可病床数 700 床。広島県内有数の高度総合医療施設。「おくすり外来」での指導や術前中止薬チェックの実施件数は NHO 施設の中でもトップクラス。